

日本エクスラン工業

産資拡大で構造転換

当面50%目標に拡大

日本エクスラン工業は「テクタス」や「ランシール」「タフチック」といった戦略素材で非衣料・産業資材領域へのアプロ

・産資資材向け販売の拡

一子を強化しており、現



「テクタス」によるバグフィルター（右）と「タフチック」（左下）

拡販を中心とするエクスラン（テクリル）事業の構造転換を進めている。

アクリロ

ニトリル100%で開発したテクタスを不織布向けに販売しており、「ようやく一定の販売規模に育ってきた」（住谷龍明取締役中）

ランシールは大量の水を素早く吸収する超吸水性繊維。食品包材やフェースマスク、メディカル、吸水フィルターなどの用途に不織布を主力に販売中。

役」と言う。テクタスの優れた耐薬品性、耐熱性を生かせるバグフィルターなどに打ち出し、対中輸出を中心に拡販を続けてきた。

タフチックはさまざまな機能性を持たせることができるアクリル微粒子で、塗料やコーティング剤などに使われている。

2018年度はこれら産資向けの販売が総じて順調に推移し衣料用「エクスラン」の苦戦をカバーした。今後も産資拡大

でエクスラン事業の構造転換を急ぎ、将来は非衣料・産資比率を「70%まで持っていくたい」という考えを示す。